

としょかんふれんず千葉市

شؤون المكتبات
بشرايع مكتباتنا ونشرنا في
مكتباتنا

第57号 2020. 11. 19

مكتباتنا
بشرايع مكتباتنا ونشرنا في
مكتباتنا



読書習慣と読書推進活動

代表 皆倉 宣之

今年で第74回を迎えた読書週間も先週終わりました。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」というスローガンの下に、敗戦まもない1947(昭和22)年に第1回が開催されました。それから74年が経ちます。この間に読書の意義を広めるための色々な読書推進活動が行われてきました。しかしながら、社会の変化は激しくそれに伴う人々の読書に対する意識にも変化が起きています。スマホの登場は、特に若者を中心にして読書という行為に多大な影響を及ぼしているように感じられます。

文化庁が行った平成30(2018)年度「国語に関する世論調査」の結果によりますと、47.3%が1か月に1冊も本を「読まない」と回答し、また、「以前より読書量は減っている」との回答が67.3%となっています。日本人の読書量は減少しているのです。ただし、注目すべきは自分の読書量を増やしたいと思うかとの問いに対し、「そう思う」と回答した人(潜在的な読者)が60.4%いることです。

ちなみに、若年層の場合はどうでしょうか。2019年に実施された「第65回学校読書調査」(全国学校図書館協議会と毎日新聞社の共同調査)によりますと、「不読者」(1か月間に読んだ本が0冊の児童生徒)の割合は、小学生は6.8%、中学生は12.5%、高校生は55.3%でした。この不読率に関しては、千葉市の図書館協議会でも議論の対象とされている大きな課題であり、学校図書館や公共図書館の果たす役割にまで及ぶものです。

では、外国ではどうでしょうか。国立国会図書館が発行しているカレントアウェアネスの最新号が取り上げている資料に、国際出版連合(IPA)が10月に公開した報告書「諸外国における読書習慣と読書推進活動」があり、それによりますと26か国における読書習慣調査の

もくじ

中央図書館長との面談・生涯学習部長との面談	2~3
令和2年度第2回千葉市図書館協議会傍聴記	4~5
コロナ禍の子ども読書まつり	6~8
パラグアイ日本人学校に本の寄贈	9
寄稿「2020『千葉市の図書館』を読む」	10~11
トショカンシテル?	
「いずみ号です~千葉市移動図書館」	13
YA コーナー「A Library Citizen」	14
本「『虹いろ図書館のへびおとこ』	
いろいろな色が織りなす一冊」	15

レビューを行ったうえで、「読書量は過去20年間で減少しており、特に若年層の減少が顕著である」、と言った傾向が広く観られると指摘しているそうです。読書量の減少化傾向は世界共通の流れのようです。

この報告書で注目されることは、各国が潜在的な読者を本へと呼び戻すための多様な取り組みを始めていることです。その一つが、読書習慣の変化を考慮した戦略の立案が必要であるとするイタリア出版協会の取り組みです。具体的には、現代社会において「読書」の意味が変容しつつあるとの観点に立った調査を開始しています。例えば、SNSなどの媒体の読書をどう位置付けるなど。

デジタル社会は、従来の図書館における貸し出し率を中心とした読書調査では把握できない変動を引き起こしています。「読書」の意味の変容もその一つです。読書推進活動を行うにあたっては、このような社会の変化を考慮することが要請されています。



読書会「俳句の本を読む」(第50回)
日時:2020年12月13日(日)2時~4時
会場:稲毛保健福祉センター3階 活動室2
課題本:『大岡信『折々のうた』選 俳句2』
長谷川權/編(岩波新書)2019.12出版
千葉市図書館に3冊所蔵
問い合わせ先:043-0000-0000 鎌田
(前回の報告は12頁)

安部中央図書館長との面談

日時：2020年10月20日(火) 10:00~12:00

会場：中央図書館会議室

参加者：安部中央図書館長

楠瀬情報資料課担当課長補佐

運営委員 7名

コロナ禍の影響が長引く中、今の図書館の見通しを伺った。

*コロナ禍の図書館の様子

図書館の場合、飛沫感染だけでなく接触感染も考慮しなければならない。国立感染症研究所による菌が死滅するのに72時間かかるとの発表に基づき、返却本・他館からの回送本を別置きする処置を取っている。

公共施設からクラスターを発生させることは避けなければならない。特に中央図書館は図書館網の中心で影響が大きいので注意している。

学校休校中でも移動図書館車を使い、市内全小学校へ本を届ける等行った。学校に届ける本は、それぞれ職員が30冊ぐらい選んだ。移動図書館車が学校へ行くと、若い先生方が興味を持ってくれた。図書館から本が届くことを喜んでもらった。研修時に図書主任や学校図書館指導員へ配布を予定していた資料や、団体貸出は休館中でも利用できるという文書も届けた。

*予算要求の状況

来年度は、図書館システムの改修を行う(令和4年2月から実施)。公募型プロポーザル方式の入札を行い、価格競争だけでなく企画内容で勝負できるようにし、新たな業者を選定する。ホームページも変わる。新聞データベースや電子書籍化の予算も要望していく。

*「図書館ビジョン2040」に関連して

Wi-Fiは全額国費で整備する。

市民インタビューは、加曽利貝塚と大賀ハスについて実際に携わった人々への聞き取り。職員が中心となって行う。

地域情報サービスは、千葉市史を電子化し、今年度末にホームページ上で公開する。運営委員からは、「知の拠点」を目指すのであれば、郷土資料も市民が正しい理解を持つようにと要望。例えば「千葉市立郷土博物館」は、歴史・民族系の博物館であり4層5階建ての城郭建築になっているが、千葉のまちの礎を築いた「千葉氏」は、千葉に千葉城は築いてない。

*「第4次千葉市子ども読書活動推進計画」について

重点として中高生の読書離れについて、また図書館との接点をつくること。スマートフォンの利用率の増加、SNS等情報通信手段の多様化も近年の特徴。スマホがどう影響しているか見ていく。

「こども六法」の講演会を官民連携(図書館と千葉市書店協同組合)で行った。よい連携をつくりたい。

*子ども読書まつりについて

図書館における最大のイベントなので、コロナ禍でも規模を縮小して行う。一般にも図書館を知ってもらう意味でもまつりは大事。

運営委員からの質問「ふれんずで例年行っているパネル展も規模を縮小して、感染に配慮して行うことはできないか？」には「今年は、3密回避のため遠慮をお願いしたい」との回答だった。

*電子書籍、読書通帳について

電子書籍は予算が付けば進める。

運営委員からの質問「先だって図書館見学した浦安図書館では、学校とも連携して読書通帳を導入しうまく活用しているが、千葉市図書館ではどう考えるか」には「よい取り組みだと思うが、千葉市では年長児に加えて、今年度初めて、市内小学校・特別支援学校の全学年に読書手帳を配布した。ゆくゆくは学校や文庫ともつなげ官民連携の一つになればと思っている」との回答。

*図書館を身近に感じてほしい。

先だって、市内小学校の6年生が、卒業アルバムに載せるためのカメラマンも同行して図書館見学に来た。

学習指導要領が改訂され、生涯教育がより重視されている。今年から市内の小学校で使われている教科書では、全学年の教科書で図書館が取り上げられ、6年生の教科書では「地域の施設を活用しよう」という単元で公共図書館の一般のフロアーが紹介されていたり、「利用案内を読もう」という単元では、公共図書館の利用案内を取り上げて、印刷物とホームページの読み比べをしたりしている。

政策は、コロナ禍でも経済に重点を置く方向にかじを切った。コロナにより全世界で格差が拡大している。生存の基本である国民の安全と安心を支えるよう、図書館も市民が生き生きと生活でき

るように支えてほしい。又、図書館で職員の研修に力を入れると「第4次千葉市子ども読書活動推進計画(案)」にうたっているが、組織で働く人の考えが活かされ、外部の意見が聞き入れられる余地がないと、組織は長い目で見ると強度が落ち沈

んでいく。職員がより生かされる組織になっていくと、利用者にもより魅力的な場になると思う。

(真上)



生涯学習部長との面談

日時:2020年10月15日(木)10時~

参加者:佐々木生涯学習部長・中島課長
土肥課長補佐・柴崎主査
運営委員7名

4月に就任した佐々木敏春生涯学習部長は、こども未来部に4年間在籍された経験があり、「感受性豊かな幼児期の子どもにとっても、その後の人格形成上も読書活動は大切である。」と話されました。

***生涯学習部の主な仕事と市図書館とのかかわりについて**

生涯学習部には、生涯学習振興課、南部青少年センター、文化財課、加曽利貝塚博物館、郷土博物館、埋蔵文化財センター、図書館がある。生涯学習振興課は生涯学習センター・公民館・科学館の管理運営やアフタースクール事業*を行っている。

千葉市図書館とは、図書館が企画した講演会やイベントを生涯学習センターで行ったり、公民館図書室に図書館職員と公民館管理室の職員が訪問し配架のアドバイスをしたり、公民館図書室職員が図書館での研修に参加したり、選書の考え方を聞いたり、連携を取っている。また、アフタースクール事業では図書館の団体貸出を利用している。

「千葉市図書館ビジョン2040」には、図書館と生涯学習センターや公民館図書室が情報交換やイベントなどの共同開催に向けて協議する機会を設け、連携協力体制を取ることが明記されている。

「第5次生涯学習推進計画」(計画期間:平成28年度~令和3年度)に位置づけられている、子ども読書活動の推進のために、近隣小学校へ利用者カードを作る案内をするなど学校との連携に取り組んでいる。

***子どもの居場所について**

コロナの感染拡大予防による一斉休校の対応として、全ての公民館で子どもの自習室開放を拡充した。5月末~9月初めまでに通算約6,000人の子どもの利用が

があり、子どもたちが公民館を知るきっかけになった。

引き続き、公民館で通年利用を行い、利用状況などを検証していきたい。

その他、子どもの安心・安全な居場所の確保と学びのきっかけを作ることを目的にアフタースクール事業を令和2年度より実施している。

※アフタースクール事業とは...

希望するすべての子どもたちの放課後に「学びのきっかけ」と「安全・安心な居場所」を提供するため、子どもルームと放課後子ども教室とを一体的に運営する事業のこと。平成29年度にモデル事業として導入され、「千葉市放課後子どもプラン」(計画期間:平成31年度~令和5年度)により、令和2年から本格実施となった。

導入以前は、就労家庭の子どもたちの生活や遊びの指導や安全管理が目的の子どもルーム(こども未来局)と放課後の多様な体験機会の提供を目的にした放課後子ども教室(教育委員会)とが並行して実施されていた。

放課後子ども教室は、保護者や地域の人に教育委員会が運営を委託している実行委員会方式で行われている。しかし、人材・活動日数の確保が課題となり、教育委員会が派遣する総合コーディネーターが実行委員会を補助する活動支援型モデル事業として支援しているところもある。

平成29年度から稲浜小で民間委託による放課後子ども教室・子どもルーム一体型モデル事業を実施。令和2年度には12校で実施されアフタースクール事業という名称になった。令和3年度には6校追加予定。

より広い活動スペースが必要となるなど課題はあるが、今後順次アフタースクールへの移行を計画している。

生涯学習部が、学びの場である図書館や公民館の管理運営を連携して行っていることがわかりました。

子どもの学びのきっかけづくりや安心な居場所づくりは重要な課題であり、その事業を民間に委託することで地域との繋がりが弱くならないことを願います。

(木元)

令和2年度第2回千葉市図書館協議会傍聴記

2020年11月6日(金) 10:00~11:30 千葉市消費生活センター3階 研修講義室
協議会委員9名 図書館関係者13名 傍聴者9名

安部中央図書館長は、挨拶の中で、図書館はコロナウィルスの感染防止に努めながら、一部をのぞき通常の運営に戻ってきている。また最大のイベントである読書まつりは中止することなく行っていく。そして11月11日からWi-Fiを全図書館で運用すること、今年度中には「子ども読書活動推進計画(第4次)」を策定し、さらにサービスに努めていきたいと話された。

【議事】

(1) 千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)について

委員長の挨拶の後、管理課担当課長より計画の概要についての説明があった。今回は委員に原案に関する質問や意見を事前に提出してもらい、質問に対する回答と意見を表にまとめたものを資料として配った。

○第3次を経て見えた3つの課題

- ・中学生までの読書習慣の形成が不十分
- ・読書への関心を高めるきっかけが必要
- ・図書館、学校、地域の団体等の円滑な連携

◎第4次計画における対応

●基本方針

- 1 発達段階ごとの効果的な取組を推進し、読書への関心を高め、読書習慣を形成する。
- 2 読書環境の整備と連携体制の構築

●計画期間

おおむね5年間(令和3年度から令和7年度)

●数値目標(令和7年度)の4つの設定 基本方針1

- 1か月間に読んだ本が0冊の児童の割合
小学生:0.5%(0.6%) 中学生:0.7%(0.9%)
- 1週間に1時間以上読書をした児童生徒の割合
小学5年生:52.0%(44.1%)
中学2年生:52.0%(43.0%)

○児童一人当たりへの児童用図書の貸出冊数 33冊(31.58冊)※()内は現状(令和元年度)の数値 基本方針2

○団体貸出の利用団体数 128団体(119団体)

●計画のための取組

132事業(再掲を除く99事業)のうち新規の取組事業は以下□枠で囲んだ5事業。

【地域における取組】<67事業中新規は4事業>

・新就学児を対象に図書館利用登録の促進

市内小学校の新1年生を対象に利用登録申請書を配布し、図書館・公民館図書室の利用を促す。

・電子図書館整備

電子書籍等のデジタル情報サービスの充実を図るため電子図書館の整備を進める。

・学校図書館への支援(学校名義利用カード)

各学校に学校名義の利用カードを配布し、セット貸出・団体貸出以外の図書資料の利用促進を図る。

・公民館図書室のWi-Fi環境整備

インターネットによる資料収集等を可能とし、公民館における学習機会の充実等を図るため、図書室を含めた公民館内のWi-Fi環境を整備する。

《連携、普及啓発の推進》<42事業中新規は1事業>

・学校図書館運営委員会と図書館等との連携

学校図書館運営委員会※において、図書館・公民館職員から助言をもらう等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携して子ども読書活動の推進を図る。

※学校図書館運営委員会は、各市立小・中学校に設置され、校長または教頭及び学校図書主任並びに保護者代表等その他校長が認めるもので構成される。

意見・質疑応答(委…協議会委員、図…図書館)から

◆研修と家庭での読書を促すことの重要性

委:千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)(以下第4次計画)の中に一番多く出てきた言葉は「研修」が8、続いて「ファミリー」が6であった。研修に力を入れていこうとすることがうかがえる。大変良いことだが、それをするにあたって、担当者やいつ、どこで等を具体的に計画することが必要である。また、「ファミリーブックタイム運動」については各家庭任意で行うものであるため実行していくことは難しいと思う。覚悟をもって、積み重ねていけるように取り組んでもらいたい。

◆年齢ごと、一人ひとりの発達段階を丁寧に

図書館が中心となってい、人の手当も

委:発達段階に応じてとあるが、どのようにその特徴をとらえているのか。6歳までをひとくくりとするのでは大まかすぎる。年齢による発達段階を細かく丁寧に見てほしい。一人ひとりの発達となれば、さらに細かい現場の対応が必要である。それには人の手配が不可欠。学校においては、学校図書館指導員を1校に1人配置し、司書資格を有するものとしてほしい。また、各図書館には児童担当を配置し、この第4次計画について、ボランティアもよく理解して活動していけるよう、図書館が中心となって進めていってほしい。

図：資料上は発達段階についてはおおまかな表現になった。1歳ごとの変化への細かい対応は必要と認識しているので、意識して事業の展開を進めていきたい。

委：0、1、2歳では脳の視聴覚領域が発達する。発達の重要性をよく理解していない保護者もいる。保護者にも関心を高めていくことが必要。そのためにも家庭への取組が重要になってくる。図書館に関わる人は大事だが、図書館だけでは適わない。難しい問題だと思う。

◆市民の力(特に文庫の取組)は積極的に

委：本編の「地域の役割と取組」で、「本市では、地域・家庭文庫による読み聞かせなど、子どもたちが読書の楽しみを知るための取組が実践されています。」とあるが、「本市」の後にまさに「市民」を入れるべきである。市民による文庫の取組があること、連絡協議会を作って活動していることまで、積極的に触れてほしい。

図：表現を精査し検討し、委員と相談して修正させてもらう。

◆Wi-Fiの整備の目指すところは

委：公民館にWi-Fiを整備することはどこを目指しているのか。

図：公民館では空いている部屋を学習の場として子どもたちに提供している。その際にWi-Fiを使って調べ学習等にも活用できるようにするため。GIGAスクール構想※による、1人1台タブレット端末を貸与された場合の利用にも備えている。図書館は11月から、公民館は来年度から。また、電子書籍を見るための対応でもある。

※GIGAスクール構想：文部科学省が打ち出した、子ども達への一人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、教育ICT環境を実現する計画のこと。

◆読書手帳を学校と連携して有効に活用する

委：読書手帳の配布は配布だけに終わってしまわないように学校と連携して、いかに子どもたちに喜んで使ってもらえるかを考えてほしい。浦安市では銀行の通帳タイプで読んだ本が印字される読書通帳を導入している。デジタルを好む今の子どもたちの特性なども踏まえて読書手帳の活用を。

委：読むことだけにとどまらず、書くことの楽しさも知ってもらいたい。小説の書き方、実際に本を作るなどの講座なども考えてほしい。また、点字の本を視覚障がい者自身が作ってみること等。図書館でも書くことは大切だと伝えてほしい。

◆公民館図書室へのサポートを

委：第4次計画には公民館図書室(以下図書室)の項目は5項目。図書室は管轄の違いはあるが、貸出冊数30万冊、市全体の2割を占めている。そのうちの40%は子どもの本。図書室は頑張っている。子どもの本の

回転率は市の平均よりも高い。公民館図書室のサポートが読書率を上げていくのではないかな。本を掴める0.5歳から赤ん坊は本を読める。そういった意識改革をしていくべきだ。就学前に人格形成ができるともいわれる。それには読書の習慣も就学前につけていくことが大切になってくる。そのためには保護者の関わりが必要。小学校でも低学年ほど力を入れることが大切。

図：0.5歳は重要だと考えている。図書室には非常に多くの所管が連携して関わるようにしている。

委：公民館図書室を以前のように図書館の分館に戻してほしい。司書資格を有する正規職員の採用を。

◆学校名義の利用カードは現場の声を取り入れ運用を

委：子どもは読書手帳で読むことの励みをもらっている。学校職員の研修としての図書館見学を受け入れてほしい。学校名義の利用カードの運用部分については現場の声を取り入れてほしい。

◆学校と図書館と地域がつながって

委：学校図書館からの「としょかんだより」を子どもが読むように手渡してほしい。子どもの年齢が上がってくるとファミリーブックタイムを取ることは難しい。地域の図書館へ行くことで読むことにつながっていくと思う。学校と地域の図書館の連携が必要。

図：学校との協力が大切と考え、学校の校長向けに説明会を計画している。中核公民館の館長への説明を終え、公民館図書室の担当者会議でも説明を行う予定。

◆電子図書の活用、データベースの位置づけを

委：情報のデジタル化、GIGAスクール構想、さらにコロナ過にあって電子図書の活用は重要になってくる。そのあたりのことに触れてほしい。データベースについては懸案になっているが、位置付けをしてほしい。

図：委員のアドバイスを踏まえて、パブコメの手続きに入らせてもらう。策定までのスケジュールは令和2年内に副市長、市長に説明。令和3年1月5日～2月4日パブリックコメント。3月教育委員会会議で承認後、3月末に策定し、ホームページ上で公開する予定。

今回の開催は2021年3月の予定

新規の事業については今まで要望してきたものが実現したものもあって嬉しい。今回の協議会では、委員に原案に関する質問や意見を事前に提出してもらい、質問に対する回答と意見を表にまとめたものが資料として配られた。それはよかったが、当日ではなくせめて前日に委員に届いていたら議論に活かされたのではないかな。

市民や現場の声に耳を傾け、「子どもの健やかな成長に資する」ために、丁寧に取り組んでいける計画を期待する。

(石原)

コロナ禍での千葉市子ども読書まつり

～2020 みんなで楽しむ図書館～

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在でも千葉市図書館のサービスの一部は制限されています。そのような状況下で、市図書館にとって大切なイベントである「千葉市子ども読書まつり」が感染症対策をとり、規模を縮小して開催されました。三密を避けるため PR もあまり積極的にできないジレンマの中、各図書館の施設の状況や感染防止対策に応じて、様々なイベントの工夫が見られました。

*「としょかんふれんず千葉市」の「世界のともだち」パネル展について

例年、世界各国の暮らしや子どもの様子を紹介した『世界のともだち』（偕成社）の本の中にある写真のパネルを展示し、中央図書館からその国々の言語で書かれた本を展示して頂きました。

更に留学生などにその国の言葉や生活、遊びなど話してもらい多くの方が参加した楽しい交流の場となりました。

今年はせめてパネル展だけでも行えないかと中央図書館に打診しましたが、残念ながら実現しませんでした。

*感染症対策について

子ども読書まつり開催に当たり、各図書館によって施設の構造や定員数、換気の有無などの状況が異なるため、イベントの規模や内容は様々でした。

検温、消毒、人との間隔をとる、マスクの着用、参加者の連絡先の記入などの予防対策に加え、飛沫対策として、大型絵本の受け手はフェイスシールドを着用し、おはなしを語るときには、語り手の前にビニールシートを張るなど参加者だけでなく、職員やボランティアにも配慮して行われました。



ビニールシートによる飛沫対策（みやこ図書館）

各図書館ではおはなし会の人数を制限したり、回数を増やしたり、これまでの読書まつりのイベントの方法を工夫していました。新しいイベントもありました。

「my 本棚」（中央図書館）

「my 本棚」では、千葉市出身の作家青柳碧人氏や、今年度講演した山崎聡一郎氏や真鍋真氏などの、子ども時代に好きだった思い出の本や、最近のお気に入りのお本などがメッセージとともに展示中です。

関連イベントとして、利用者の写真も「わたしの本棚」として募集し展示しています。申込みは11月末までに延期されましたので、図書館へ写真をお持ちください。

どちらも12月16日（水）まで展示されています。



「My 本棚」に展示された青柳碧人氏のおすすめ本



「私の本棚」にはどんな本があるのかしら？

昔なつかし紙芝居：稲毛図書館

稲毛図書館では、感染予防として初めて屋外でのイベントを行いました。

自転車の荷台に紙芝居の舞台を載せ、拍子木の音も軽やかに、昔ながらの紙芝居スタイルでボランティアの方が実演してくれました。ここは公園ではなく稲毛図書館の駐車場の一角です。駐車場にシートを引き、座布団を置き、「あまびえ」「ねずみきょう」など4演目を見た後は、お待ちかねの……。



駐車場で開催された昔なつかし紙芝居

手話で楽しむ大型絵本おはなし会：稲毛図書館

大型絵本は子ども達がよく知っている、『ぞうくんのさんぽ』『きよだいなきよだいな』など繰り返しが多いものでしたので、手話から想像できる単語もたくさんありとても面白かったです。子どもたちは絵本を見たり、手話を見たりと頭を動かしながら熱心に聞いていました。大型絵本の後は、「こんにちは」「ありがとう」などの4つの手話を習いました。

手話を学んでいる大人の参加者はどんなふう到手話で絵本を紹介するのか興味があったので、中央区から来たと言っていました。

この企画は手話のできる職員が異動してきたので試みたそうです。図書館の職員の方はコロナ禍にあつて積極的にPRができず、参加者が少なかったのは



手話で「さんぽ」はどうやるのかな？

残念だったと話されていましたが、子どもたちのための新しい企画を大変嬉しく思いました。絵本をとおして手話を身近に感じられたので、来年も続けてほしいと思いました。

お楽しみ福袋(プレゼント入り)：みやこ図書館

年齢別(0～3歳・3～6歳・1、2年生・3、4年生・5、6年生)に3冊ずつ入ったお楽しみ福袋が50袋準備されました。プレゼント入りです。

職員の方がテーマを決めどの本にしようか、心を込めて選んだ福袋。多くの子どもたちが一番に福袋を目当てに来館し、何が入っているのか、ワクワクしながらカウンターにいく様子がほほえましく見うけられました。

貸し出し作業はどうするのかと尋ねたところ、袋の後ろに本の題名はなくバーコードだけが貼ってあり、中身は秘密のまま貸し出す工夫がありました。

前の週に近隣小学校の2年生が図書館見学に来ており、小学生1～4年生向けの福袋が人気でした。準備した50袋すべて貸し出されました。思いがけない本との出会いがあり、新しい世界が広がってくれりと嬉しいです。



どの福袋にしようかな…

似顔絵の世界 展示・お渡し(事前申込)：みやこ図書館

毎年、大人気の「似顔絵の世界」です。いつもは対面で似顔絵サークル「みる会」の方が交代で描いてくれるのですが、今年は事前に写真を添付して申込み、似顔絵を描いてもらい、まつりの日にお渡しする方法に代わりました。先着30名の似顔絵をお二人の方が描いたそうです。



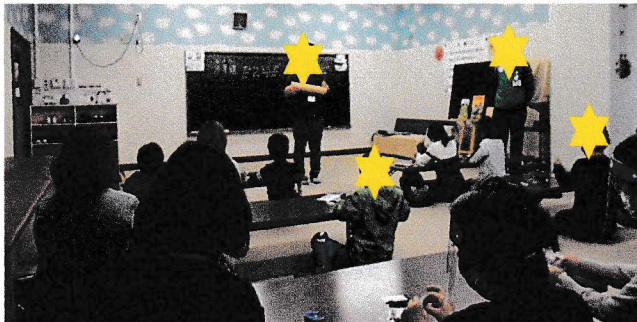
よく似てるでしょ

お孫さんの成長を毎年描いてもらっていた方もいましたし、三姉妹のかわいらしい似顔絵など、素敵な笑顔であふれていました。

2階のギャラリーには大坂なおみや藤井聡太二冠など「みのる会」の皆さんの個性豊かな似顔絵が現在でも展示されています。

テレイドスコープ作りと秋のおはなし会：美浜図書館

地域おはなしボランティアの3人によるおはなし会を楽しんだ後、テレイドスコープを千葉市科学館の方を先生に作りました。テレイドスコープは万華鏡の仲間であることを教わりました。英語ではカレ(きれい)イド(かたち)スコープ(みるもの)と言うとのこと。ではテレイドスコープを漢字で書く?遠華鏡。筒の片方にビー玉を半分埋め込み、万華鏡と同じように筒の中に三角形に組んだ鏡を入れ、ビー玉と反対側ののぞき穴のシールを貼って出来上がり。細い筒は、図書館で本を借りると書名等が印刷されて出てくる貸出標の芯とのこと。部屋のあちこちを覗いて見ると不思議な模様が筒いっぱいに見えます。楽しんだ後、図書館員より『万華鏡』大熊進一/文(文芸堂)の本がこどもしつの入りのワゴンに置いてあると紹介されました。



テレイドスコープでふしぎな模様が見えるかな?

絵本の読み聞かせを配信 美浜図書館

新型コロナウイルスの影響により2月末からおはなし会は休みました。けれども子ども達から度々問い合わせがありました。そこで、図書館で選んだ絵本の録画を撮り配信しようと思いましたが、出版社の許可が得られませんでした。けれども毎年美浜図書館打瀬分館できむらゆういち氏の「絵本の音楽会」を行なって来た御縁で、絵本『あらしのよるに』と『あるはれたひに』の表紙を載せ、文章を読み配信することはコロナ特別許可として得ることができ、図書館で作成しました。

読み手は図書館と分館の児童担当の職員です。図書館のおはなし会では、目の前の子ども達のリズムに合わせてページを繰っていきますが、機械の向こうにいる不特定多数の人達に向かって読むのだと思うと緊張したそうです。「おはなしと一緒に絵が進まないの、最初は入り難かったけれど聞いているうちに入っていった」等と声が寄せられているそうです。

『あらしのよるに』『あるはれたひに』 きむらゆういち/作 あべ弘士/絵(講談社)

*地域おはなしボランティアの参加について

地域おはなしボランティアは、いつもは図書館からの依頼を受けて、地域の育児サークルや、小学校、保育所などに出向き、おはなし会やわらべうたの会などを行っています。千葉市子ども読書まつりにも参加、協力してきました。

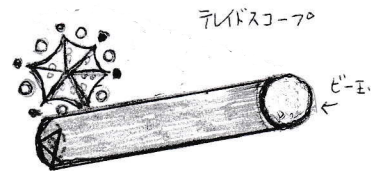
今年はコロナ禍で活動もなくなっていました。子ども読書まつりのボランティア募集があったのは、みやこ図書館、美浜図書館、緑図書館の3館だけでした。

みやこ図書館では、事前の打ち合わせの際に「令和2年度地域おはなしボランティア派遣方針～コロナ対策～」を配布し、今後のボランティア派遣に対しての感染防止対策や読書まつりの感染予防策について、説明がありました。その後、ボランティアが実演してみても意見を出し合いました。

今年度は子ども読書まつりの開催が危ぶまれましたが、21日(土)開催予定のあすみが丘分館を残し、市図書館すべてで開催できていることを何よりもうれしく思います。

コロナ収束のめどは立たず、電子図書館などオンラインも含めた新たな取り組みを模索していく必要はありますが、生の声で本を読み、一緒に本を楽しむことの大切さ、図書館で本を手渡す人の存在の大きさを改めて感じました。

利用者だけでなく職員やボランティアの感染予防を第一に考えた感染対策の徹底と、子どもたちのためのイベントを準備した図書館職員の熱意と創意工夫の努力が実ったコロナ禍の子ども読書まつりでした。(木元)



パラグアイの日本人学校へ本を寄贈

千葉市中央図書館がパラグアイの日本人学校へ本を送ると聞き、としょかんふれんず千葉市も、古本市用に会員や市民の皆さんからお預かりしている本の中から小・中学生に読んでもらいたい本170冊を選び、図書館を通し国際交流課からパラグアイの日本大使館に送っていただきます。本を寄贈してくださいました皆さん、ありがとうございました。遥か彼方の子ども達が本を手にとって楽しんでくれますように…。



書名	書名	書名
【絵本】	【読み物】	
1 マウス一家のふしぎなさんぽ	60 ネズの木通りのがらくたさわぎ	119 ガフルの勇者たち 1
2 それゆけ! さかなくん!	61 二分間の冒険	120 ガフルの勇者たち 2
3 テンボ	62 もりのへなそうる	121 ガフルの勇者たち 3
4 もかし、レオナルド・ダヴィンチが…	63 あひるの子	122 ガフルの勇者たち 4
5 めんどりペニー	64 バッテリー	123 三国志 上
6 あなたってほんとにしあわせね!	65 子どもとたのしみ101のあそび	124 三国志 中
7 オコジョのすむ谷	66 夏の庭	125 三国志 下
8 だいくとおにろく	67 ムジナ探偵局	126 だれも知らない小さな国
9 びりのきもち	68 琥珀の望遠鏡 (上)	127 豆つぶほどの小さなぬ
10 うんがにおちたうし	69 琥珀の望遠鏡 (下)	128 八月の暑さのなかで
11 あずはきと	70 パパは専業主夫	129 たつのおとしご
12 ジャイアント・ジャム・サンド	71 チャーリー・ムーン大かつやく	130 地獄変
13 おまたせクッキー	72 子ねすみラルフのぼうけん	131 くしゃみくしゃみ天のめぐみ
14 こんな日だってあるさ	73 火のくつと風のサンダル	132 ふたりのロッテ
15 ぐるんばのようちえん	74 バンブルムース先生とゆかいななかま	133 なぞなぞの本
16 ほしになったりゅうのきば	75 白い馬をさがせ	134 ロッタちゃんのひっこし
17 どんぐりぼうやのぼうけん	76 ぶたのフレディ南へ行く	135 ガリヴァー旅行記
18 ずっと、いっしょに	77 ドミニック	136 お江戸の百太郎
19 おとなしいめんどり	78 冒険者たち	137 お江戸の百太郎怪盗黒手組
20 ビルボの別れの歌	79 かいけつゾロリのママだーいすき	138 お江戸の百太郎赤猫がおどる
21 マドレーヌといぬ	80 かいけつゾロリの大かいじゅう	139 お江戸の百太郎大山天狗怪事件
22 てぶくろ	81 それいけズッコケ三人組	140 お江戸の百太郎秋祭なぞの富くじ
23 みつけたものとさわったもの	82 荒野にネコは生きぬいて	141 お江戸の百太郎音松、宙に舞う
24 ねずみとくじら	83 ちょうちん屋のままっ子	142 こんぎつね
25 ブレーメンのおんがくたい	84 大どろぼうホッツェンブロッツ	143 ギリシャ神話
26 いたずらきかんしゃちゅうちゅう	85 大どろぼうホッツェンブロッツふたたびあらわる	144 あしながおじさん
27 いっぱんの鉛筆のむこうに	86 大どろぼうホッツェンブロッツ三たびあらわる	145 オズの魔法使い
28 さかさまかさ	87 エルマーのぼうけん	146 たのしいムーミン一家
29 ガラスめだまときんのつののヤギ	88 エルマーとりゅう	147 青い鳥
30 ヴィクターとクリスタベル	89 エルマーと16びきのりゅう	148 ふたりのイーダ
31 ん・ん・ん・ん	90 しょうぼうねこ	149 ちいさいモモちゃん
32 村のお医者さん	91 おばあちゃんのすてきなおくりもの	150 赤毛のアン
33 まえむきよこむきうしろむき	92 トムは真夜中の庭で	151 リトルプリンセス
34 だむのおじさんたち	93 くまのテディ・ロビンソン	152 星からおちた小さな人
35 ならの大仏さま	94 こちら『ランドリー新聞』編集部	153 チョコレート工場の秘密
36 かしいビル	95 ハヤ号セイ川をいく	【その他】
37 ちいさな鳥	96 ハリー・ポッターと賢者の石 1-1	154 手づくりスライムの実験
38 ばしん!ばん!どかん!	97 ハリー・ポッターと賢者の石 1-2	155 いのちのふるさと・水田稲作
39 はしれ!かもつたちのぎょうれつ	98 ハリー・ポッターと秘密の部屋	156 心のふるさと稲作文化
40 14ひきのあさごはん	99 ハリー・ポッターとアズカバンの囚人 3-1	157 ある池のものがたり
41 かわいそうなぞう	100 ハリー・ポッターとアズカバンの囚人 3-2	158 いっしょにつくろう
42 王さまと九人のきょうだい	101 精霊の守り人	159 空と水のじっけん
43 ほくにけちゃうよ	102 闇の守り人	160 いとでんわ
44 ラチとらいおん	103 夢の守り人	161 かがくのぼうけんあそび
45 ハーメルンの笛吹き男	104 虚空の旅人	162 たこ
46 スモールさんはおとうさん	105 神の守り人 来訪編	163 どうくつをたんけんする
47 もりのほんやさん	106 神の守り人 帰還編	164 夢ってなんだろう
48 ワニぼうのかいすいよく	107 蒼路の旅人	165 恐竜はくつ記
49 ウィリーとともだち	108 大草原の小さな家	166 ことはをおぼえたインパンジー
50 ウィリーをすくえ!チム川をいく	109 大草原の小さな家	167 マンモスの謎
51 あくたれラルフ	110 ブラム・クリークの土手で	168 川はよみがえる
52 ももたろう	111 シャーロック・ホームズの冒険 上	169 どんぐりノート
53 おだんごばん	112 シャーロック・ホームズの冒険 下	170 おしっこの研究
54 つるによぼう	113 怪盗伸士ルパン	
55 100万回生きたねこ	114 ルパン対ホームズ	
56 チャレンジミッケ! 3 コレクション	115 奇巖城	
57 チャレンジミッケ! 5 むかしむかし	116 子どもに聞かせる世界の民話	
58 チャレンジミッケ! 6 こわーいよる	117 わくわくなぞなぞ大冒険303問	
59 おおきなおおきなおいも	118 あさひやま動物記 1	

2020年7月から千葉市図書館協議会の公募委員を務める○○さん。2014年度に公募委員になられた時と同様、今回も市図書館15館と公民館図書室21館全てに足を運び、その見学記を私たちの会に送っていただきました。そこで○○さんに、市図書館の現状と展望について寄稿していただきました。

「2020 千葉市の図書館」を読む ○○ ○

「2020 千葉市の図書館」によれば、残念ながら平成27年と令和元年を比較すると、来館者数、貸出冊数、登録者数等の数値は94.1、91.1、90.8%と数値は低落している。財務担当から見れば予算削減の資料かもしれない。しかしこの対応でよいのであろうか。世の中には不変、可変の両面がある。変わってならないものは初心であり、目標である。図書館のビジョンは尊重されるべきである。

可変のスピードは速い。読書の原型は崩れ去った。読書の要件である、1.近づき易さ(アクセスビリティ)、2.読める(リーダビリティ)、3.興味がある(インタレスト)。この要件の中でアクセスビリティは、ネットの出現によって存在感は完全に無くなってしまった。世界中の本がネットによって距離感がなくなった。

<貸出率はどうか>

千葉市民の図書館利用を貸出の状況から見てみよう。貸出率の高い順にジャンルをみると、一般書では文学書48.9%、技術10.2%、社会科学8.9%、歴史8.7%、芸術7.3%と続いている。児童書では文学書73.4%と圧倒的である。次は自然科学8.3%である。

成人の一般書では半数は文学書であり、第二位は技術部門であるが、これは料理、実用書利用が中心で、女性の利用がわかる。第三位の社会科学は、経営、ビジネス、教育の貸出が伺える。児童書は四分の三が読み物の文学書である。第二位の自然科学8.3%はこどもの科学心、怪獣、虫好き等が表れている。絵本は芸術5.4%第三位である。絵本、読み物で約8割に達している。

<蔵書率はどうか>

上記の貸出に対して、蔵書率はどうであろうか。文学書39.7%、社会科学15.2%、芸術9.2%、歴史8.9%、技術8.6%と続いている。文学書の貸出効率の良さがわかる。地区図書館の蔵書率では緑図書館が39.0%と一番低い。他の5館は43.0%~44.8%である。

これに対して貸出率の変化、差は館によって激しい。若葉図書館の文学書部門の貸出は65.4%と高い。それに次いで花見川図書館が60.4%と高率である。

文学書の蔵書率は前述した様に緑図書館が39.0%と低い。同図書館のジャンル別蔵書は社会科学12.6%、美術9.5%、歴史9.1%、技術8.8%、自然科学8.5%と平均化されている。この傾向は中央図書館の蔵書構成に似ている。それともう一つ、緑図書館は中央図書館をよく利用していることもわかる。

さて、蔵書、貸出ともに多い文学書ジャンルの中味はどうであろうか。ベストセラー、新刊書、話題書に集中することはどの図書館も同じである。日本文学、海外文学の取り扱いに各館変化があるので興味がある。

個人全集を全集扱いして、別陳列するのではなく、一般文学書の単行本の棚に入れて陳列されていた。この様式を採用している図書館は稲毛、美浜、花見川の3館である。文芸書の中に一緒に陳列されているから、読者との出会いが多くなり、利用率は向上する。

各地区図書館の個人文学全集(日本・海外)の扱い点数を見てみよう。みやこ図書館15作家、花見川図書館19作家、美浜図書館23作家、緑図書館47作家、稲毛図書館52作家、若葉図書館54作家であった。(筆者の黙視なので見落としがあるかも)

<全集は中央図書館に任せましょう>

ここで申し上げたいことは全集、選集、著作集、叢書の陳列で頑張ることはありませんよということである。中央図書館の全集の量は格別に多く、地区図書館並びに分館は中央図書館に全面依存した方がよい。県内で一番揃っている。中央図書館が所有し、配架され閲覧出来る日本・海外の文学者、評論家、エッセイストの作家数は以下の通りである。日本文学作家数396人、海外文学作家数122人、計518作家の全集が陳列されている。

<明細については別途資料が来ていますので、筆者まで申し出下されば、メール、郵送どちらでも対応致

します>

中央図書館では完璧に近いまでに蔵書しているので、地区図書館、分館ともこの蔵書を活用すべきでしょう。然るべき読者にはPRをし、読者満足を得たらよいでしょう。

<保管替えシステムの活用>

尚、特記すべきこととして緑図書館の個人全集の取り扱いがある。それは館内書架には並びきれないので、書庫に在庫がありますと、作家別に案内板が書棚に差されていた。よいサービスだと思う。

有限書棚に蒐書書籍が並びきれないことも図書館の悩みの一つではないだろうか。ここで一つの提案を申し上げたい。利用率の低い本は並べない。館内が棚の林立になっているが、その棚を低くする。受付カウンターの前が狭い…広くしたい。

意識改革をして、本を減らす、空間を作る、棚を低くする、レイアウトを変化させる。

その方策として、保管替えシステムを全面活用する。自館利用者の分析をし、自館マーケットの研究をする。利用されていない本を書架からはずして中央図書館に預ける。そして自館の中に空間を多くする。特にカウンター前は広く、ゆったり感をもたせる。

地区図書館、分館 14 館中、専用の書庫をもっている図書館は稲毛、みやこ、若葉、花見川の4館だけである。しかし若葉、花見川は書庫がフル活動しているのであろうか？両館とも受付カウンターの前が狭い。この両館はともに 2 階に読書室を持つ。読書室の壁面に一階の書架を移動させれば、大型本、全集、レファレンスブックが収容できる。みやこ図書館の2階が参考になると思う。問題は予算であろう。しかしこれを言ったら何も始まらない。改革意識で変化を成就してもらいたいものである。

高齢社会である。福祉施設にボランティアを派遣して、紙芝居の図書館出前を検討してみたい。桃太郎、浦島太郎等、名作程、高齢者には人気が高いという。

みずほハスの花図書館の自動貸出システムが稼働した。成果の検証の結果を、他図書館の導入に結びつけていただきたい。

<学校図書室との連携は必須>

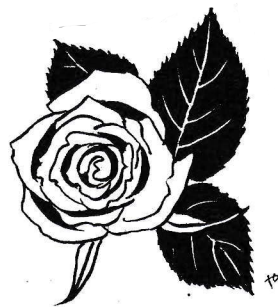
地区図書館と地域の小中学校図書室の連携は、これからの公共図書館の発展に欠かせないことである。このことは毎年お題目の様に言われるが前進しない。

具体策が無いからか？小学校三年生の国語の教科書に単元として「国語辞典の使い方」、小学校四年生の教科書に「漢和辞典の使い方」「地域図書館の利用」がある。この単元を利用しきれていないことが現状である。四年生になったら地区図書館に行き、図書館の体験学習をすること、中学一年生は一学期中に中央図書館に行き、半日学習をする。午前、午後に分ければ、市内中学校 55 校は2か月間で終了する。千葉県県の財産である中央図書館を見学することは、千葉市民の責務であることを認識したい。特に現在は県立図書館が休館同様であるから、それだけ中央図書館の責任は重い。この計画を実施、遂行するためには教育委員会の指導、助言、協力が必要である。前述した様に、千葉市図書館の各種活動の成果数値は低調である。読書の変質があったとはいえ、100万都市千葉市で言えることは、図書館の未利用者の多いことである。若年者こそ図書館の未来の利用者であるから、育てなければならない。まだやり残したことがあると思いたい。受入図書館と地区小中学校の図書館職員の連携も大事になってくる。

<コロナ禍の影響は…>

コロナウィルスの影響で、今年の図書館活動は異常であった。図書館にコロナ閉館があり、利用者との接点が失われてしまった。開館が許された後でも、制約事項が多く、従来の図書館活動が出来ていない。

出版業界の動きでは、出版社の本作りの面では編集はテレワークで支障は出なかった。営業は外出自粛で影響は出た。全体的には働き方改革の早期到来と受け取られていた。影響の多く出たのは流通担当の取次であった。大型書店、チェーン店のコロナ休業により、返品が増え、書店営業の不可等、マイナス面が目立った。書店は明るい面が多かった。登校できない児童、生徒の自宅研修の結果、ドリル、読み物が売れた。図書館の代わりに書店が担当することとなった、奇妙なコロナ対応であった。



旅する里親パネル展示2020 と 図書館 ～稲毛図書館に立ち寄って～

中央区 ○○ ○○

毎年10月は里親月間です。里親家庭のこと、そして里親家庭で育つ子どもたちのことをもっと知ってもらおうと毎年秋に大きな展示活動を行っています。今年は、密になるのを避ける形で知恵を絞り、展示を市内さまざまな場所に旅させ、その様子を逐次 SNS で流すことにしました。主催は千葉市で、里親・児童養護施設・児童相談所・NPO 団体が実行委員となって、小道具から、わかりやすい展示パネルまで手作りですすめてきました。

旅先の一つ、今年初めて稲毛図書館に立ち寄りました。たくさんの親子連れが集まる場所だからでもあります、もう一つ、図書館がその地域の文化を育む場所だと思ったからです。家族にはいろいろな形があること、大人も子どもも皆それぞれの人生を抱えて生きていると気づくこと、それがあたり前の文化として根づいていたら、私たちが展示の中で描く「こんな地域にしたいな」という未来に重なっていくと思うのです。気軽に立ち寄れる図書館のある暮らし、お隣の里親家庭に挨拶する毎日、あたり前の積み重ねが、地域も耕し文化も耕していきます。

今年の展示に味を占め、来年は市内各地の図書館とコラボができないかな、と秘かに話合っています。社会的養護とか図書館という枠を超えたコラボレーションを願って、今年の展示でお世話になった皆さま、本当にありがとうございました。

読書会報告「俳句の本を読む」第49回

課題本『大岡信『折々のうた』選 俳句2』長谷川權/編 (岩波新書)

日時:2020年10月11日(日)2時~4時

会場:稲毛保健福祉センター 大会議室 参加者9名

夏目漱石の項が終わり尾崎紅葉の句から読み合った。

〈泣いて行くウェルテルに逢ふ臈哉 尾崎紅葉〉ゲーテの小説からの想像句。『金色夜叉』で有名な紅葉は1867(慶應3年)漱石と同じ年の生まれ。紅葉も漱石も明治という同じ空気の中で青春時代を過ごし、同じ大学に入学していたのだ。「明治の小説家は主に英語を通じて欧米文学をも愛読する人がかなりいた。」と著者は記す。紅葉は作家として漱石より若く作品を発表。明治28年には俳句結社秋声会を創立。正岡子規に対抗する新派俳壇のリーダーとして活躍、俳号は十千萬堂(とちまんどう)とある。漱石の俳号は愚陀仏。

〈日盛りに蝶のふれ合ふ音すなり 松瀬清々〉この蝶は揚羽蝶なのではと参加者。確かに夏の登山道、僅かな水たまりに大きな黒揚羽が舞っているのを何度も見た。

〈赤い椿白い椿と落ちにけり 河東碧梧桐〉この句は子規に絶賛された。

虚子と「子規門下の双璧」と言われた碧梧桐、本名は兼五郎。因みに虚子は本名清。

中学時代碧梧桐は同級生の虚子を誘い子規から俳句を学んでいたが、のちに虚子と袂を分かつようになった。

以下、高浜虚子の名句が続き改めてその多才な句を皆で読み合った。

〈白牡丹といふといへども紅ほのか〉牡丹は原産地中国では「花王とよばれ、百獣の王獅子と好一對とされた」とのこと。牡丹の別名は「深見草」昔から和歌には「ふかみぐさ」で詠われてきたとある。

〈去年今年貫く棒の如きもの〉「貫く棒のごときものの強さは大したもの、快作にして怪作というべきか」と著者は評す。去年今年は新年の季語。

〈遠山に日の当りたる枯野かな〉虚子26歳の作。「静寂枯淡の味に加えて大らかさと気品がある」と評される句。

〈桐一葉日当りながら落ちにけり〉桐一葉は中国の古典『淮南子』(紀元前139年に成立)の中の説山訓に書かれており、桐の葉が落ちるのを見て秋を知ること。衰亡の兆しを感じるこのたとえとある。この淮南子は「人間万事塞翁が馬」の出典でもあり『日本書紀』(720年)の神話へも引用されているとのこと。日当りながら落ちる葉は桐でなくてはならなかった、その葉の形の美しさも含めてと参加者の感想。

〈ワガハイノカイミヨウモナキススシカナ〉漱石の弟子から〈センセイノネコガシニタルヨサムカナ〉の電報を受け返した句。まさに俳諧の愉しみを味わった。次回は12月13日(日)14時~16時 36頁から (鎌田)

ぶつく・ぶく

『戦場の秘密図書館』

シリアに残された希望』

マイク・トムソン/著 小国綾子/訳 文溪堂

2019.12 182p.

シリア内戦で政府軍によって完全封鎖され、戦場となった町ダラヤの地下につくられた秘密図書館を守り抜いた若者たちのノンフィクション。日常的な空爆、食料や物資の絶対的不足という絶望的な状況の中で「希望」となったのが「本・図書館」という事実がうれしく、一気に読了しました。

(○○ ○○)





いずみ号です ~千葉市移動図書館~

中央図書館情報資料課 ○○ ○○

図書館網を全域に形成し、市内どこに住んでいても図書館を利用し、必要な資料を入手できるようにする手段の一つが動く図書館です。移動図書館・自動車図書館・自動車文庫・巡回図書館・ブックモバイル(Book Mobile)などと呼ばれています。固定施設の図書館から遠い地域や、人口密度の低い地域がサービス対象です。離島のある自治体のなかには「図書館船」を運行しているところもあります。

千葉市の移動図書館業務は、中央図書館情報資料課 利用サービス班が担当し、月2回巡回しています。

千葉市における図書館活動は昭和34年、ライトバンによる青少年団体への巡回文庫を開始したことから幕をあけました。市民を対象にした図書館活動は、昭和37年に移動図書館車を購入してからになり、中心部を除く小学校区内27箇所にて同年8月巡回を開始しています。昭和43年に愛称公募により「いずみ号」と命名され現在に至っています。

昭和47年に市の図書館施設として初めて北部図書館(現在の稲毛図書館)が開館した後は、北部図書館の館外奉仕係として活動しました。

平成13年中央図書館の開館により、現在の情報資料課の担当となりました。その間、市内の各図書館、分館、公民館図書室が充実してくるとともに、最も多い時期でバス2台、ステーション55箇所ありましたが、現在はバス1台で、市内26箇所を巡回しています。

移動図書館の本は、利用者の需要にあわせて絵本、児童書、育児書、小説、料理、ガーデニング等約三千冊を載せています。ステーションによって積み込む本の種類や傾向が違いますが、高齢者の方が多く利用されるステーションには、時代小説を多く持って行ったり、乳幼児連れのお母さん向けには絵本や料理の本を多くしたりと、変化をつけ、少ない積載資料でも新鮮で魅力的な棚作りを心がけています。

また、ステーションによっては貸出・返却を受け持つくださるステーションマスターさんがおられ、地域の方々との橋渡しをしてくださっています。

雨の日や、猛暑の日や、木枯らしの日は大変ですが「大変ですね。ご苦労様です」という利用者のかたのねぎらいが、はげみになります。

かつては全国にあった移動図書館も年々数少なくなってきています。地域図書館の整備がすすんだことに加え、利用者の減少や自治体の財政難が原因とされています。全国初の移動図書館といわれた県立中央図書館の「ひかり号」もすでに廃止されました。

しかし移動図書館の利用者は、高齢者や乳幼児のいるお母さんなど、施設図書館まで行くことが困難な方が多くなっています。そういうみなさんが本に接する機会をつくることは、大切な使命と考えています。

巡回後は、データの落としこみ作業や預かってきたリクエストカードの処理、用意できた予約本の電話連絡等、合間を見て選書や発注作業、傷んだ本の修理などなど、あっという間に時間が過ぎていきます。

そして、楽しみに待たれている利用者の方の表情を思い浮かべながら、明日の巡回の準備をし、一日が終わります。

これからも「いずみ号」は夢や知識をのせて走りつづけます。



「 A Library Citizen 」

花見川区 ○○ ○○(大学生)

本は、私たちに色々な世界を見せてくれます。その表紙の中では、様々な人や物が待っていて、私たちをこの現代社会からどこかほかの世界へと連れて行ってくれます。私は、そんな素敵な本というものが幼い頃から大好きです。そして、そんな本が所狭しと並ぶ図書館という場所は、本が好きな人にとってはまさに夢のような場所といえるでしょう。しかし、現代は手元のスマートフォンからでも本を読むことができ、図書館へ行く人も減ってきているかもしれません。そこで今回は、私の考える図書館の魅力というものについて述べさせてもらいたいと思います。

前述のように、今は家にいながら好きな本を読めるという便利な時代です。わざわざ図書館や本屋に行かずとも、ネットショッピングなどで読みたい本を家まで届けてもらうことができ、スマートフォンやタブレット、パソコンなどで電子書籍を読むこともできます。そのようにして本を読むことも一つの手です。

しかし、本屋や図書館で本を探すことは、家や機械の上でただ一冊の本を読むのとはまた違った楽しみをもたらしてくれます。

図書館という場所を「ただ本を借りる場所」と捉えている人もいるかもしれません。もちろん図書館へ行けば本を借りることはできますが、図書館のいいところは、ただ本を借りられるということだけではなく、私は、図書館の最大の魅力は読みたい本にたどり着くまでの道のりにあると考えています。というのも、もし電子書籍で読みたい本を探す場合、やることはたった一つ、検索バーに読みたい本の名前を入力するだけです。一方、図書館で本を探す場合には、名前の検索によって蔵書の有無の確認はできるものの、実際に本を手に取り、読み始めるまでにはひと手間かかります。

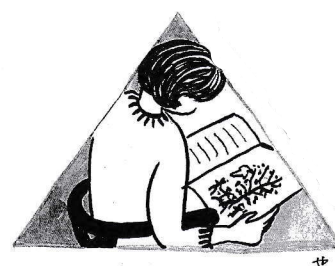
この手間こそ図書館の特徴であり、最大の魅力なのです。

図書館で目当ての本に向かう途中には、ほかにも様々な本を見かけます。そして、その中に少しでも気になったもの

があれば手に取ることができます。もしそこが本屋であれば、気になった本を見つけてもすぐに全てを読むことはできません。店頭で読める範囲には限りがありますし、全てを読みたいとなったら購入しなくてはならないからです。しかし、図書館であればそんなことを気にする必要はありません。気になった本は、目当ての本と一緒に自分の席に持っていく、すぐに読み始めることができます。この、新たな本との出会いの機会こそが、私が図書館を好む最大の理由です。

私自身、幼い頃は図書館や学校の図書室で様々な読みたい本を見つけれられたものの、最近は読書に費やす時間も読む本のこだわりも少なくなり、あまり熱心な読書家ではありません。先日も大学の授業で使う本を探すために図書館を利用しましたが、そのような時に見つけて気になる本も、よく見るドラマや映画の原作本であったりします。また昔読んだ本に再度出会ってもう一度読んでみたくなることもあります。このように新たな本を手にとる機会の少ない私のような人間であっても、図書館ならば、思いもよぬ素敵な本が見つかる時がくるかもしれません。図書館での読書や本探しは、その手間まで楽しむことができるのです。

気になった本を手に入れる手段として図書館を選ぶということは、本の世界との触れ合いを増やすことでもあります。本に囲まれることができる図書館という空間で、新たな本との出会いが待っていると考えるとワクワクしてきます。



☆ YA 世代の参加を願い、このコーナーを設けています

『虹いろ図書館のへびおとこ』 いろいろな色が織りなす一冊

中央区 〇〇 〇〇

『虹いろ図書館のへびおとこ』櫻井とりお/著(河出書房新社)は、どこか懐かしいタッチのイラストと図書館の様々なグッズがちりばめられた素敵な表紙と不思議なタイトルに思わず魅かれてしまう本でした。

この本には、いじめや不登校、差別をはじめ学校教育、家庭環境など様々な現代社会における、より本質的で深刻なテーマが暗く残酷にならずに描かれています。

主人公は小学6年生の女の子の「火村ほのか」。そのおんなの子は転校先でいじめにあい不登校になります。家族に心配をかけないように学校へ行くふりをして毎日図書館に通います。そこで図書館司書のイヌガミさんや、やはり不登校でこの図書館に通っている「スタビーズ」くんとあだ名で呼ばれている中学生の男の子が中心となって織り成していく物語です。(このあだ名がどうしてついたかは是非この本をお読みになってください。)

主人公は図書館での人との出会いや様々な本に触れることで自信を取り戻し、容姿や考え方はいじめの対象ではなく個性であることを学び、だからこそ人間同士は理解しあえることに気づき、そして家族問題や同級生のいじめによって傷つけられ閉ざされた心を少しずつ開放していきます。

なぜこの主人公は学校には通えなかったがこのイヌガミさんのいる図書館には通えることが出来たのか、そのことを通して本来の公共図書館の在り方や図書館司書の役割が描かれています。

その一つは「図書館の自由に関する宣言」の「第3 図書館は利用者の秘密を守る」をこの図書館司書のイヌガミさんがきちんと実行したからこそ、この本の小学6年生の多感で繊細なおんなの子や中学生の「スタビーズ」くんはこの図書館に通えるようになったのです。その他にも色々な要因がありますがそれは、この本を読むことによって是非味わってもらいたいものです。

この物語は目次を見ればわかるように、絵本や物語のタイトルが付けられその本の内容の一部分が関連づけられることによっても、ストーリーは展開していき、この本に登場する人物が織りなす色彩と相まって更に多重に彩りを添えていきます。

そのことによっても著者が図書館司書で、図書館と本と人を大変愛していることが伝わってきました。

私自身も小学校の頃を思い出しました。父の転勤で3回の転校を余儀なくされて、いきなり生活が変わってしまうことに納得できない自分がいました。最後の転校で家の近くの埼玉県立図書館に通うようになりました。家にある椋鳩十や小川未明、新美南吉、宮沢賢治などの日本の物語を読んだ時とは全く異なる感覚で、ワクワクしながらドリトル先生物語全集やケストナー少年文学全集、アーサー・ランサム全集など読みました。司書さんが勧めてくれたナルニア国ものがたりは私を虜にしました。そんな自分の当時の気持ちが、この本を読んでいるうちに懐かしい本と重なりながら次から次へと湧き出てきて、私自身もこの主人公ほど大変な経験はしていないとはいえ、図書館や司書さんからは大変癒されていたことを懐かしく思い出すことが出来ました。

世間では指定管理のことが問題となっていますが、この本は、最後にさらに指定管理にもふれ、イヌガミさんのような図書館司書が不在となり図書館が利便性の追求だけに終わってしまうならば、この『虹いろ図書館のへびおとこ』の物語も成立しえなくなってしまうことで指定管理の危うさを語り、私の小学校時代ももっと色褪せた思い出になっていたに違いないと実感させられました。



***新会員を募集しています**

「としょかんふれんず千葉市」は「図書館を使い、知り、支援する」をモットーに活動しています。本や図書館に関心がある方の入会をお待ちしています。年会費は、一般 1,500 円、学生 500 円です。

全図書館で Wi-Fi が利用できるようになりました

これまで一部の図書館のみで利用できた Wi-Fi が、市内全館で利用できるようになりました。利用時間は各図書館の開館中、1日2回まで(1回の接続につき4時間まで)。端末の貸出はないので、Wi-Fi 機能を搭載したスマートフォン等の端末が必要。接続する際のパスワードは図書館職員に尋ねます。

この事業は、内閣府の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用により、7月市議会にて補正予算(図書館のICT化 484万円)が承認され、実施に至ったものです。私たちは図書館の方にお話をうかがい、実際に利用してみました。

<中央図書館>

2階はこれまでに引き続き FREESPOT Wi-Fi を利用しています。1階の児童コーナーに新たに千葉市のフリーWi-Fi が設置され、カウンターで登録方法とパスワードをもらい接続しました。Wi-Fi のマークは、電波の接続範囲が児童コーナー中心ため、児童コーナー入口付近に2か所のみ掲示したそうです。メリットは利用者のデータ通信量を減らすことなく検索が可能なことです。

<稲毛図書館>

2階全フロアと3階自習室で利用できますが一部に繋がりにくいところがあり、接続の程度は機種によっても差が出ることがあるそうです。パソコンはキーボード操作に伴い音が出るので、稲毛図書館では、カウンターに向かって左奥にパソコン席が設置されていました。(4 席、電源あり)

<花見川区の図書館>

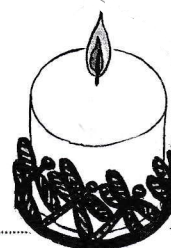
花見川図書館へパソコンを持って行きました。利用は2階の読書室のみです。私の知識では利用説明書通りに進めません。図書館では教えてもらえず、そのパソコンがここでは対応できないのではとも言われました。そこで団地分館へ行き、散々苦労してようやく接続することができました。花見川図書館では「利用者の使用する機種は多様なため、図書館では対応しきれないです」と説明されました。「千葉市図書館 Wi-Fi(公衆無線 LAN)利用規約」にも(本サービスの利用)「前項の端末の設定及び操作は、すべて利用者が自己の知識及び責任に基づいて行うものとする」(第5条の4)とあります。別の時、花見川図書館でも改めて接続が出来ました。

Wi-Fi と紙媒体、図書館での利用が始まりました。多くの人の利用を期待します。公民館図書室については、今後整備の予定です。(石倉、木元、十倉)



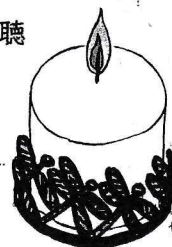
Wi-Fiのマーク

このマークがある所で利用できます。



う ご き

- 10月 1 日(木) 運営委員会
- 10月 1 日(木) 古本市用の本運び込み(8回目)
- 10月11日(日) 第49回読書会
- 10月11日(日) ホームページ作成について
- 10月15日(木) 生涯学習部長との面談
- 10月20日(火) 中央図書館長との面談
- 11月 1 日(日) 臨時運営委員会
(千葉市文庫連絡協議会と合同)
- 11月 5 日(木) 運営委員会
- 11月 5 日(木) 古本市用の本運び込み(9回目)
- 11月 6 日(金) 令和2年度第2回
千葉市図書館協議会傍聴
- 11月12日(木) 編集会議
- 11月19日(木) 会報57号発行



発 行 者

としょかんふれんず千葉市
代 表 皆 倉 宣 之

【連絡先】事務局

〒263-0054 千葉市〇〇区〇〇 〇〇-〇
TEL・FAX 043(〇〇〇)〇〇〇〇
年会費 一般 1,500 円 学生 500 円
郵便振替 00150-4-282943

落丁等ありましたら、右記連絡先までお知らせ下さい